

# Hack the Learning

山本祐輔, 大木哲史

## ● 研究背景と目的

本プロジェクトでは、フィルターバブルやプライバシーパラドックスの問題、および人間と機械の共生の問題など、最先端のICT技術がもたらす負の側面をエンドユーザが理解するためのワークショップや仕組みを開発することを目的とした。

## ● 研究内容

### ■ 概要

上記目的を達成するために、下記項目について研究を行った。

1. フィルターバブルを含めた情報アクセスリテラシーの測定尺度の開発
2. 慎重な情報精査を促すウェブブラウザの開発および評価
3. ユーザ志向を考慮したプライバシーパラドックスの評価に関する検討
4. 人間と機械の共生を考えさせるワークショップ開発

項目1については、「ウェブアクセスリテラシー尺度」を開発した。また、エンドユーザが自身のリテラシーの程度を自己評価できるよう、測定用ウェブサイト「みんなのウェブアクセスリテラシー」を公開した。

項目2については、フィルターバブル等の影響によってウェブ情報の信憑性に注意が向けられていないユーザに対して、情報精査行動を促進する検索エンジン拡張およびウェブブラウザの開発を行った。

項目3については、ユーザはプライバシーを保護したいという意識を持ちながらもプライバシー情報を開示してしまう、というプライバシーパラドックス仮説に対して、プライバシー提供によって得られる便益がプライバシー情報の開示に影響を与える傾向を「プライバシー志向性」として定義・評価する手法を開発した。

項目4については、来たるべきオートメーション・人工知能社会において、機械・人間の強みと弱みを踏まえて、機械・人間のそれぞれが果たすべき役割を考えさせるワークショップの企画・開発を学生中心に行った。本研究項目では、DJI社が販売しているRoboMaster S1を人工知能を備えた機械として設定し、RoboMasterと人間が協力し合うことでクリアできる競技の設計、および競技のためのAIプログラミングを行った。

## ● 今後の展開

今後は、開発した技術やアプリケーションの改善および実証実験を行う予定である。

## ● 成果

論文誌2件、査読あり国際会議発表(3件, CIKM2018,2019, WISE2019),  
国内学会・シンポジウム発表6件, 招待講演1件, 授賞2件 (うち1件は最優秀論文賞)